

がん看護教育プログラム

がんプロスローガン：（患者さんの）気がかりを聴いて向き合うがん看護

- **目指す看護師像**：1. がん患者の病気体験に共感し、患者のニーズに気づくことのできる看護師
2. がん患者・家族を長期的多角的に捉えQOLを高める支援ができる看護師
- **目的**：がん看護に必要とされる専門的知識・技術を習得し、看護実践できる能力を身につける
- **方法**：3つの柱で運営を進める

第1の柱「がん看護の基盤となるもの」：ActyレベルⅣ。また、ActyレベルⅤ以上の希望者は自己研鑽とし、受講調書を記載し、1～4回目まですべて参加することを条件とする。

第2の柱「がん化学療法看護」：自己研鑽。受講調書を記載し、1～4回目まですべて参加することを条件とする。

第3の柱「緩和ケア」：自己研鑽。受講調書を記載し、1～4回目まですべて参加することを条件とする。

研修の柱	目標	対象	スタイル	時間	日程			
● 第1の柱 がん看護の基盤 となるもの	看護倫理・コミュニケーション・意思決定支援の基本的知識・技術を学ぶことにより、がん患者の真のニーズに気づき、患者・家族のQOLを高める看護を実践できる。	Acty レベルⅣ	時間内	8	倫理分析	コミュニ ケーション	意思決定支 援	発表会
		Acty レベルⅤ 以上	自己研鑽		1回目から4回目すべて出席できること			
● 第2の柱 がん化学療法看護	化学療法が「確実に」「安全に」「安楽に」に行うための、看護師に必要な基本的な知識・技術を学び、実践できる。がん看護概論と患者のセルフケア支援の中核となる症状マネジメントを含む。	Acty レベルⅢ 以上	自己研鑽	4	1回目から4回目すべて出席できること			
● 第3の柱 緩和ケア	緩和ケアの中でも重要な症状マネジメントの基本的知識と技術を学び、患者の苦痛緩和に取り組むことができる。がん看護概論を含む。	Acty レベルⅢ 以上	自己研鑽	4	1回目から4回目すべて出席できること			

- **修了生としての要件**：第1・2・3の柱をすべて受講し、必要な知識・技術を得たと認められた者を修了生とする。修了生にはがんプロ修了認定バッジを授与する。





がん看護教育プログラム



患者さんの気がかりを聴いて向き合うがん看護



目的

がん看護に必要とされる専門知識・技術を習得し、看護実践できる能力身につける



目指す看護師

がん患者の病気体験に共感し、患者のニーズに気づくことのできる看護師
がん患者・家族を長期的多角的に捉えQOLを高める支援ができる看護師

● 第1の柱

がん看護の基盤となるもの

看護倫理・コミュニケーション・意思決定支援の基本的知識・技術を学ぶことにより、がん患者の真のニーズに気づき、患者・家族のQOLを高める看護ができる。

対象	ActyレベルⅣ		ActyレベルⅤ以上	
スタイル	時間内		自己研鑽 	
時間	8			
日程	倫理分析	コミュニケーション	意思決定支援	発表会

1回目から4回目すべて出席できること 

● 第2の柱

化学療法看護

化学療法が「確実に」「安全に」「安楽に」に行うための、看護師に必要な基本的知識・技術を学び、実践できる。がん看護概論と患者のセルフケア支援の中核となる症状マネジメントを含む。

ActyレベルⅢ以上			
自己研鑽 			
4			
講義概論(仮)	講義副作用(仮)	事例検討	事例検討

1回目から4回目すべて出席できること 

● 第3の柱

緩和ケア

緩和ケアの中でも重要な症状マネジメントの基本的知識と技術を学び、患者の苦痛緩和に取り組むことができる。がん看護概論を含む。

ActyレベルⅢ以上			
自己研鑽 			
4			
講義(講義・症状マネジメント)	事例検討	事例検討	発表会

1回目から4回目すべて出席できること 



修了生としての要件：第1・2・3の柱をすべて受講し、必要な知識・技術を得たと認められた者を修了生とする。
修了生にはがんプロ修了認定バッジを授与する。